

◎スクールミッションの確認

「地域社会の中核を担う若者を育成する」ことが学校の最大目標 ※どのような若者が地域社会の中核を担うのか？（イメージが膨らみすぎ何を指導すればいいのかわからない）

→「地域社会の中核を担う若者」≡「独り立ち」(自立)「つながる」(協同)若者と定義する

「独り立ち」？：感謝や尊敬の気持ちを持って、親・先生離れでき、人生において生じる課題に対し、自身から行動し、対応できる力を備えた人

「つながる」？：社会との関わりの中で、自身の「つながり」を深化させることができる人（自身の「つながり」方の特徴について知り、自身ができる事を広げていける人）

「独り立ち」「つながる」ために必要な要素とは？（生徒に身につけさせるべき力とは）

①3年間で何を学ぶかや、自身の将来設計について考えられる（深められる） ②自身の課題（学力・コミュニケーション能力・規範・気持の強弱）を知り、課題克服に向けての展望を持つ

③自己や他者への理解を深化させ、自己有用感を高める ④様々な人との関わりを通じて働くことや地域に貢献する意義を見出す ⑤主体的に考え、行動する力

→これらの力を身につけさせるための進路キャリア教育部目標を策定

◎平成27年度進路キャリア教育部目標

・独り立ちの第一歩として進路実現100%を目指す進路指導の充実

・「出口指導」ではなく、その先の未来を見据えたキャリア教育の充実

独り立ちの第一歩として進路実現100%を目指す進路指導の充実

重点目標	具体的取組	評価指標	中間報告	年度末報告
生徒が主体的に進路実現を果たそうとする意欲や行動力を育む	応募前職場見学への積極的参加	就職希望者数×1.5倍の延べ参加人数	8月下旬現在で就職希望者69人に対して114人	
	校外ガイダンスの積極的参加	5回以上の実施	8月下旬時点で4回実施	
	生徒の自主性を高める仕掛け	エントリーシートの作成	学校推薦を必要とする生徒には全員実施	
	グループ面接練習の積極的活用	グループ面接練習の実施	各教室を利用して小グループを編成した	
	学期に1回の進路便りの作成	3者面談を活用して配布	2学期までは実施	
個々の生徒や企業、学校への理解を深め、一人一人の生徒の適性や希望に応じた進路実現サポート	進路開拓のための企業訪問	100社以上の企業訪問の実施	進路担当・3学年で125社を訪問	
	進路カルテの積極的活用	各面談時に随時更新	7月中旬までは積極的に活用できた	
	企業カルテの充実	企業訪問と連動して情報の収集	かなりの情報量になってきており、整理が必要	
	面接練習に関する教員間の学習会の開催	学習会の実施	今年度は2回実施	
	進路模試による生徒の実態把握	各学年、1回以上の実施	3月末に実施予定	
	進路決定後の面談の実施	全員面談を行う	11月以降実施予定	
	個々の生徒について進路検討会の実施	5回以上開催	8月中旬までに4回実施	

「出口指導」ではなく、その先の未来を見据えたキャリア教育の充実

- 1年次キャリア目標：①自己理解を深め、やりたいことを見つける ②働くことや地域社会への参画に前向きになる  
 2年次キャリア目標：①様々な人との関わりを通して多様な生き方を学ぶ ②様々な活動を通じて、自己有用感を高める  
 3年次キャリア目標：①課題を見出し主体的に学ぶことで自らを高める ②積極的に社会と関わり、社会に生きるものとしての自覚を持つ

重点目標	具体的取組	評価指標	中間報告	年度末報告
産社・総学の効果的かつ効率的な運用	進路キャリア教育部から年間予定、単元目標、指導内容の大枠を各学年に提示し、進路キャリア担当者と学年主任、学年団から成るWGによる授業内容の作成	仕様書→指導用資料→指導略案の流れを完成させ、授業者と進路キャリア教育部が協同して授業作成に当たっている	評価指標には則った手法でできているが、イレギュラー発生により進路担当の業務量が増加傾向にある	
	職員全員が3年間を見通したキャリア教育の共通理解を持つための現職教育を実施	年1回以上の現職教育を実施	8月現在で未実施	
	一人一人の生徒の展望に応じた系列選択を行うために系列長+担任会議を定期的に開催	3, 4回実施	8月中旬までに2回実施	
キャリア教育の整理・推進・検証	就業への意欲や社会に必要な能力を獲得させるためデュアルシステム参加者5名以上を目指す	年2回、参加者5名以上	夏季デュアルについては、未実施。春デュアル実施予定	